

総合自立支援事業所開設にあたって

令和 元年 8月 15日

社会福祉法人月峰会 理事長

医学博士 水谷一裕

移行支援、就労継続B事業および非認定、障害未・非認定者向け就労・自立生活支援事業所の開設に際し、ご挨拶させていただきます。

私は、幼少時両親の仕事の関係で、知的障害施設の静岡県立磐田学園等で過ごしました。都内大学医学部を卒業してからは大学病院に勤める傍ら、重度心身障害児施設の東京小児療養病院、都立あきる野養護学校、栃木県たかはら学園等に医師としてお伺いさせていただきました。その過程で東京育成会緒方理事長、そして手をつなぐ親の会の皆様と知り合い、障害児入所施設を見学させていただきました。そうした中で、ご父兄から聞かれたのは、年金を全て投入しても入所施設利用料が払えないこと、通所への変更を求められており、自分たちが亡くなった後が大変気がかりである等、その内容は切実たるものでした。実は、平成13年、障害児（者）施設建設に向けて、羽村市で企画しましたが、一部の地域の人たちの反対で挫折し、地元の手をつなぐ親の会の人たちとも別れざるを得ませんでした。

時代も変わりユニット型特養ホームや保育所とは次元の異なる手を差し伸べなければならない、福祉の原点に遭遇する状況となりました。即ち、今の子どもたちは放課後デイや養護学校等在学中は、生活が守られています。しかし、社会に出てからはコミュニケーション不足により一人ひとりの能力と労働を提供できる職場、つまり一人ひとりが人間らしく生かされる場所を見い出すために多くの時間を費やしています。

平成28年6月シムウェルマン(株)飯村芳樹氏と出会い、グループホーム等でなく総合的自立支援に向けたさまざまな機能、設備を有する複合的事業を社会福祉充実計画の

主翼として未来に向けての計画を提示頂きました。これらについて、八王子市地域協
議会でのプレゼンテーションを通して、八王子市長からの地域公益事業としての意見
書を頂き、そのあと東京都知事の承認を頂くことが出来ました。

当法人の「人を大切に」「敬天愛人」を基本理念として、事業の実践に皆様方とともに
取り組む姿勢に努めて参ります。

皆様方より賜りました数々のご厚情に感謝するとともに、今後、益々のご指導ご鞭撻
を賜りたく、衷心よりお願い申し上げる次第です。